

支え合う

住みよい社会

地域から

恵那市 中野方町民生委員児童委員協議会



岐阜県版ミンジー

恵那市は、岐阜県の南東部に位置し愛知県・長野県と接しています。市の北部は木曾川が流れ大井ダム上流は風光明媚な恵那峡があり、中央部はJR中央線の恵那駅を降りると、電線が地中化された駅前中央通りの奥に阿木川ダムが見える他、中央自動車道により交通の便が良い所です。南部は恵那駅から明知鉄道が走っており、大正村・岩村城下など歴史的景観があります。

令和4年4月現在の人口は47,946人で、その内高齢者は17,102人と高齢化率が35・67%となっており、平成の合併時から7,815人の人口減少と少子高齢化に歯止めがかからない状況です。

恵那市民生委員児童委員協議会について

恵那市民生委員児童委員協議会は、大井、長島、東野、三郷、武並、笠置、中野方、飯地、岩村、山岡、明智、串原、上天作の13の地区ごとに単位民児協を組織しており、民生委員118人、主任児童委員26人、計144人が活動しています。

各单位民児協においては毎月定例会を開催し、関係機関からの報告事項の確認やスケジュール調整に加え、防犯パトロール、食事サービス、独居の

見守りを兼ねた広報誌まめなかなの配布や地域ごとに研修会を実施するほか、各委員が独自の地域の見守りや支援活動を行う中で、困りごとを抱えている人に寄り添い、必要な支援が受けられるよう行政機関などへつないでいきます。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、対面での定例会開催が困難になっていますが、WEB会議アプリを活用して定例会を開催する単位民児協もあり、デジタル技術の活用も進んでいます。

その他、交通安全週間や赤い羽根共同募金活動へも協力しています。

おしゃべり会の開催

恵那市の最北部に位置し東西に長い盆地内の集落が中野方町です。「日本棚田百選」があり雪は少ないですがとても寒い地域です。

中野方町民生委員は独居高齢者の見守り活動を行っています。独居高齢者の中には外へ出ておしゃべりをする機会が少ない方もいるため、社会福祉協議会の協力を得て、年一回集まって貰い「おしゃべり会」を開催しています。

しかし、この2年間は新型コロナウイルスの関係で開催を自粛してしましたが、まん延防止等の規制が解除され久しぶりの実施となりました。

以前は近隣の飲食店などからマイクバスで集合場所まで迎えに来て貰い、観劇等を楽しんだ後、昼食を摂りながらおしゃべりを楽しみ、最後にはビンゴゲームなども楽しみました。

最近では、参加者の中には足が悪く階段等を歩くのがつらくなったとの声が出て、参加を辞退される方もありました。このため、今回は町内にあるふれあいセンター「まめの木」の施設を借りて開催することとしました。

当日は、無償移送サービスの「おきもり号」での送迎と、担当民生委員の車両により自宅まで迎えに行き、集合しました。最初は、町内の住民が参加しているマンドリンクラブにお願いし、約40分の懐かしい音楽の演奏を聴きました。マンドリンクラブも新型コロナウイルスの関係で演奏を発表する機会がありませんでしたが、今回多くの方に聴いて貰うことが出来ました。

演奏終了後、この時期作る朴葉寿司を食べながら、歓談をし、昼食を摂り、その後ビンゴゲームを楽しみました。



おしゃべり会の模様 (マンドリン演奏)

今回は、近い場所ということとで約3分の2の参加があり、盛況の内に終了しました。

福祉委員との見守り報告会

平成4年4月現在24名の女性が自主的に福祉委員として活動をしています。この福祉委員の方々が対象者(主に独居高齢者)毎に担当を決めて、民生委員が行っている独居高齢者世帯の安否確認の隙間を、訪問やさりげない見守り活動を通じて補っています。

このため、民生委員と福祉委員との情報交換の場として、包括支援センター・市社会福祉協議会・振興事務所の職員を交えて、合同で二ヶ月に一回「見守り報告会」を開催しています。



見守り報告会の模様

最初に各民生委員が担当している対象者を訪問している福祉委員が同じになるようグループ分けをし、対象者の状況確認や意見交換を行います。その後、全体会議で各グループの発表を行った後、事例検討会・勉強会などを行っています。

また、当日報告会に欠席する場合は、見守り状況を担当民生委員へ報告しています。皆で助け合い協力しながら、隙間のない見守り活動をしています。